

理科は遊びだ

理科専科 藺牟田 雄一

「遊びの中にたくさん理科があるね。」きらきら目を輝かせてメダカの様子を観察している五年生の児童と、そんなお話をしました。顕微鏡をのぞいたり、マッチで火をつけたり、理科の授業には気持ちが高まる活動がたくさんあります。虫をつかまえたり、よく飛ぶ紙飛行機を研究したりすることも立派な理科の学習です。

三年生のみなさんが、一学期にカイコの飼育を行っていました。それぞれが自分の育てているカイコを手にのせ、頭にのせ、服にくっつけ、愛おしそうに眺め、桑の葉を食べさせていました。大好きなカイコのこともっと知りたいと本で熱心に調べる姿は、まさに遊ぶ研究者でした。手で触れる、いろいろな角度から眺める、たまには壊してみる。「理科は遊びだ。」好奇心を大事に、目の前の事象と触れ合える理科を目ざしていきたいと考えています。

校内研究 ぼくらの田無

研究主任 藺牟田 雄一

田無小学校では、毎年全教職員が一丸となって児童の学力向上を目指すための校内研究を行っています。今年度は、「児童の主体性を育む授業の創造」をテーマに、生活科や総合的な学習の時間の授業研究を行っていきます。今年度、児童の主体性を高めるための学習題材は、「田無小学校や地域・田無」です。

本校は来年度、開校百五十周年を迎えます。この記念すべき瞬間をお祝いするためにも、児童とともに、田無小学校や地域のことをもっと深く知ること、学校や地域への愛情を高めたいと考えています。地域のことを学ぶために保護者の皆様にもご協力をいただくことがあるかと思えます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

外国語学習における発音

英語教育推進部 小室 秀幸

Orange という英単語を「オレンジ」と読むのは大人ならば簡単なことだとおもいます。しかし、子供は「オレンジ」ではなく「オランゲ」と読んでしまいます。これは、先にローマ字を習っているから起きてしまう現象です。既習事項が上手に活用できないと学習が楽しくなりません。そこで外国語の授業では、発音の練習をしています。「A」などのアルファベットには、アルファベット読みとフォニックス読みがあります。「A」はアルファベット読みでは「エー」。フォニックス読みでは「ア」と読みます。授業で出てくる英単語はほとんどがフォニックス読みです。授業の前半にフォニックス読みの練習をして音素を認識させることで自然と英単語を読む助けになります。Dog ならば「ドウ オグ」とフォニックス読みをします。続けて読むと「ドウオッグ」となり、犬のことだと理解できます。このような練習を積み重ねて、外国語の学習が楽しくなるようにしていきたいです。

一人ひとりの子供に合った支援を目指して

特別支援コーディネーター担当 瀬川 雄介

四月当初に市の教育支援課から「西東京市がめざす教育」というパンフレットが各学年・わかば学級に配布されました。ここには、西東京市が目指す一人ひとりの子供に合わせた対応について記載されています。

子育てをしていく上で、一方的に話すことが多い子や言葉の習得が遅い子、落ち着かない子など、どこかで困り感を感じることがあると思います。このような行動や状況は、育て方のせいでも、子供のせいでもありません。成長の仕方は一人ひとり違います。それぞれの子供の特徴を踏まえ、その子に合った接し方や環境を整えてあげることが、子供の困りごとを減らすことができます。大切なのは、子供が抱える困難さへの気付きとその共有を出発点にすることです。子供のことで困ったことがあった際には、担任にお知らせください。家庭と学校とが一緒になって子供の成長を見ていきましょう。